

年頭挨拶



厚生労働省 人材開発統括官付 能力評価担当参事官 安達 佳弘 氏 (あだち よしひろ)

謹んで新春のご挨拶を申し上げます。

皆様方には日頃から、人材開発行政への多大なる御理解と御協力に深く感謝申し上げます。

新型コロナですが、昨年の夏には三年ぶりに緊急事態宣言等の行動制限を行わず、マスクは会話をしない限り屋外は原則不要となる等、対応状況に少しずつ変化が生じてきたところです。引き続き、感染状況に留意しつつ、平時に近い社会経済活動が可能となるよう、政府においてもしっかりと取り組んでまいります。

貴協会におかれましては、指定試験機関として長年にわたり運営いただいておりますレストランサービス技能検定につきまして、令和2年度以降感染防止対策を講じながら試験を無事執行していただき、令和3年度には約4,700人の受検申請がありました。

貴協会を始め、技能検定委員の皆様方の御尽力の賜物であり、深く敬意を表します。4万5千人の技能士を擁する対人サービス分野の試験を実施されてきた先達として、技能検定制度のさらなる発展に引き続き御協力をお願い申し上げます。

さて、若年技能者が国際的な舞台で技能を競い合う第46回技能五輪国際大会が昨年9月から11月に世界各国で分散開催という形式で開催されました。日本では10月に京都市で3職種実施して、日本人選手は2職種において金メダル、1職種で銅メダルと、全職種でメダルを獲得しました。最終的に我が国は前回のカザン大会を上回る8個の金メダルを獲得し、金メダル獲得数の国別順位は世界3位となっています。

スイスのルツェルンで開催された技能五輪国際大会のレストランサービス職種は2020年の技能五輪全国大会で金メダルを獲得した杉浦悠月選手が出場されました。惜しくもメダル獲得とはなりませんでしたが、これまでの訓練や大会参加を通じて学んだことや経験したことは、杉浦選手の今後の職業人生に役立つかけがえのない大変貴重なものになると思います。今後は、杉浦選手の技能や経験を次の選手に引き継ぎ、業界の一層の発展や、技能五輪国際大会のレストランサービス職種でのメダル獲得への一助となるよう御尽力いただくことを期待しております。

また、11月には第60回技能五輪全国大会が千葉県の幕張メッセなど13会場で開催されました。ライブ配信を行いつつ、3年ぶりの有観客での開催となりました。多くの観客に来場をいただき、技能者育成に関する機運の醸成につながったものと考えています。貴協会には技能五輪国際大会及び全国大会への御支援、御協力を賜り、心より感謝申し上げます。

また、技能五輪競技大会のように若者の技能・技術を競い合う場として、貴会では「HRSサービスコンクール」を主催いただいていると承知しています。昨年2月に開催されたヤングプロフェッショナル部門について、テレビ放映の御案内を渡辺専務理事からいただき私も拝見しました。選手の皆様におかれては、審査員や観客等に見られながらのステージ上で行う実技は緊張したものと思われそうですが、選手の皆様それぞれホスピタリティをもって笑顔で競技を行う姿勢には感銘を受けました。テレビ放映では、コンクールに出場された選手の注目ポイントやバックヤード等も演出上放送されており大変見応えがありました。今回厚生労働大臣賞を受賞された石井里奈選手はカレッジ部門での金賞受賞経験もあり、今後は是非技能グランプリでのメダル獲得を目指すべく、引き続き技能の研鑽に励んでほしいと思っております。また、他の出場者の皆様におかれても、引き続きの技能の鍛錬、後継者の育成に貢献いただけると幸いです。

コロナ禍においてもコンクール開催に御尽力された貴協会には、改めて深く敬意を表します。国としても若年技能者の育成は重要な課題であると認識しており、引き続き、技能五輪の開催等様々な取組を進めてまいります。

結びに、貴協会の益々の御発展と皆様方の御健勝を祈念申し上げます。新年の御挨拶とさせていただきます。

